

# wish

前橋市手をつなぐ育成会報

●●● ウィッシュ

ホームページアドレス <http://m-teotunagu.moo.jp/>メールアドレス [info@m-teotunagu.moo.jp](mailto:info@m-teotunagu.moo.jp)

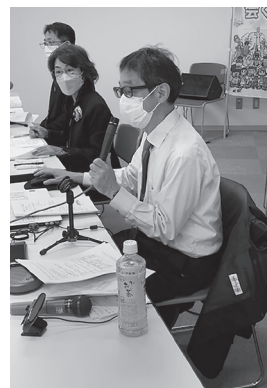
携帯TEL 080-7744-4300



○発行所/前橋市手をつなぐ育成会 前橋市東上野町 459-1 前橋市立前橋特別支援学校内 ○発行人/塩崎政江 ○印刷所/マルエー印刷

## 3年ぶり、皆さんとお会いできた総会

新型コロナに対する感染拡大防止のため、令和2年度は書面総会、令和3年度は完全オンラインでの開催でしたが、令和4年度はご来賓にも会場にお越しいただき、オンライン併用の総会となりました。理事80名中、会場での参加23名、オンライン参加14名、委任状29名、計66名で総会は成立しました。



やはり、皆さんの顔が直接見える総会は、気持ちもつながっていくように感じていいですね。オンラインの方もビデオで顔が見られるようにしていただいたので、賛成・反対の考えも見えやすくてよかったです。オンライン併用だと出席しやすいという声もいただきました。



総会では、市長、教育長、福祉部長、社協会長からご挨拶を頂戴しました。山本市長からは、わかりやすいパネルも示しながら「市長として障害者の方が困らないように、AIを使った新たな移動手段を考えている」など、具体的な障害者への思いを伝えていただきました。吉川教育長、小坂福祉部長、南雲社協会長からも、手をつなぐ育成会員の皆さんへの温かい応援の気持ちをお聞きすることができました。

## 今年の事業の素晴らしさ



協議では、福田副会長の進行のもと、たくさんの議題を話し合っていました。

- 令和4年度事業計画の「群馬県手をつなぐ育成会大会前橋大会」では、前橋市に共催していただくことになりました。おかげでサテライト会場の運営体制も整いました。
- 令和4年度の「手をつなぐ作品展」は、教育委員会にも共催となっただき、おかげで初めて市内全域の公民館を巡回できる予定です。
- 2年間中止になっていた前橋市の福祉パレードは、今年度は手をつなぐ育成会の担当です。新型コロナ対策も検討しながら、できる形で啓発活動を行うことになりました。

最後に、障害福祉課から、上武国道沿いに新設する道の駅「まえばし赤城」に福祉ショップが開設することが発表されました。みんなの店の中原さんは「ショップだけでなく、障害者がほっとできる場所、交流できる場所になってほしい」と新設道の駅への思いを話していました。

前橋市手をつなぐ育成会 令和4年度 基本方針

1 「みんなが主役の前橋大会」をめざして

国連では、SDGs「誰一人取り残さない」社会を目指しています。本会が支援対象の中心としている知的障害のある方々が、一人一人の特性に応じて自立していくために必要、かつ適切な支援を推進することが大切です。

そのためには、多くの市民が知的障害や発達障害のある方々のことを知り、理解すること、そして国や県、市も総力を挙げて、誰もが安心して暮らし続けることができる地域を整えていくことが必要です。障害の有無にかかわらず、共に生きていく「地域共生社会」の実現が、本会の活動の基本にあります。

令和4年度は「群馬県手をつなぐ育成会大会（前橋大会）」が開催されます。これを好機として、障害のある方への理解を深めるとともに、障害のある方が活躍できる共生社会の実現を目指していきたいと考えています。

2 乳幼児期から親なき後まで

我が子の障害を知った時、親は戸惑い、混乱し、言葉にできないほどの辛さを感じたことと思います。そして子どもが成長するに従って、どこに進学させたらいいのか、卒業後はどうなるのだろうか、どこに相談したらよいのだろうか、親の不安や悩みは多様です。その思いを一人で抱えることなく、一緒に考え支えていく人がいれば、その不安は徐々に解消されていくことでしょう。

幼児期、児童期、青年期と子どもは成長していきます。その成長に合わせて、学校、施設、行政、支援団体などが手をつなぎ、共に支援することが、障害のある方にとって非常に重要なことです。障害のある方が地域の中で自立していくためには、自ら意思決定ができるように支援する地域の体制づくりも欠かせません。加えて、超高齢化社会が進み、親の高齢化に伴い、「残された障害者をどうするか」という不安は年々高まり、まさに“まったなし”の状況です。このような多くの課題に対して、様々な立場の方々がみんなと一緒に考え、よりよい地域社会を生み出していくためのつなぎ役を、本会は担っていきます。

3 新型コロナウイルス感染対策

「Withコロナ」の時代における活動のあり方について、育成会の活動を「どう工夫して実現するか」と、模索しながら推進しています。令和2年度から、公民館やみんなの店などの協力を得て、啓発活動としての「手をつなぐ作品展」を実施しています。また、親子で参加する「ふれあいハイキング」等も、少人数で分散した形で開催してきました。さらに、オンラインを活用した会議や研修会等をより効果的に開催するなど、感染対策を充分に行った上で、より充実した事業にすることを目指します。

「すべて障害者は、個人の尊厳が重んぜられ、その尊厳にふさわしい生活を保障される権利を有する」と、障害者基本法にあります。この当たり前の基本理念が現実のものとなるよう、前橋市手をつなぐ育成会は、前橋市・前橋市教育委員会・前橋市社会福祉協議会・関係団体等としっかり連携しながら、障害のある方とその家族を支えています。会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和4年度 事業計画

〇はじめに

今年度は、群馬県手をつなぐ育成会大会（前橋大会）開催や、福祉パレードのブロック担当等、大きな事業が予定されています。これに向けて会員や役員の皆様のご協力をお願いすることが多くなると思います。一方でコロナ禍の中でもできることを模索しながら実施してきた前橋の活動スタイルに、一定の評価をいただいているところでもあります。本年度もそのような期待に応えられるよう、一層様々な工夫をし、会員のニーズに沿った活動の展開を目指していきます。



市役所及び全公民館で開館		令和4年度 手をつなぐ作品展
7月18日～7月25日	中央公民館	
7月27日～8月3日	本郷公民館	
8月5日～8月11日	柳川公民館	
8月13日～8月19日	元郷公民館	
8月21日～8月27日	市役所1階	
8月29日～9月4日	群馬公民館	
9月6日～9月12日	上州公民館	
9月14日～9月20日	大田公民館	
9月22日～9月28日	群馬公民館	
9月30日～10月6日	宇都宮公民館	
10月8日～10月14日	芳賀公民館	
10月16日～10月22日	東公民館	
10月24日～10月30日	城南公民館	
11月1日～11月7日	東公民館	
11月9日～11月15日	群馬公民館	
11月17日～11月23日	宇都宮公民館	
11月25日～12月1日	芳賀公民館	
12月3日～12月9日	東公民館	
12月11日～12月17日	城南公民館	
12月19日～12月25日	東公民館	
12月27日～1月2日	群馬公民館	
1月4日～1月10日	宇都宮公民館	
1月12日～1月18日	芳賀公民館	
1月20日～1月26日	宇都宮公民館	
1月28日～2月3日	宇都宮公民館	
2月5日～2月11日	宇都宮公民館	
2月13日～2月19日	宇都宮公民館	
2月21日～2月27日	宇都宮公民館	
2月29日～3月5日	宇都宮公民館	

- (1) 啓発事業
  - ①会報の発行      ②インターネットの活用      ③福祉パレードの担当
  - ④手をつなぐ作品展      ⑤群馬県手をつなぐ育成会大会（前橋大会）の企画運営
- (2) 研修事業
  - ①研修会等への参加、サテライト会場の設置と意見交換
  - ②障害福祉先進地域の施設見学等
  - ③委託事業による研修等  
ゆうあいサークル、料理教室、家族教室（少人数で分散開催、オンライン併用）
  - ④地域生活勉強会
- (3) 団体等の活動費助成
  - ①保護者会等活動助成・団体組織活動助成      ②学校関係活動助成
- (4) 関係機関・団体との連携、行政への要望活動
- (5) 地域生活支援事業



1.収入の部

(単位/円)

項目	令和3年度予算額	令和3年度決算額	備 考
繰越金	197,187	197,187	前年度より
会費	1,250,000	1,303,136	個人会員1027人、PTA団体会費45校
補助金等	632,000	617,000	市補助金43万2千、県育成会委託事業17万、県サポート協会1万5千
雑収入	1,000	59,497	行事参加費、寄附、利子等
計	2,080,187	2,176,820	

2.支出の部

(単位/円)

項目	令和3年度予算額	令和3年度決算額	備 考
会報発行	200,000	238,850	年4回(印刷・郵送等)
委託事業費	180,000	212,559	ゆうあいサークル、料理教室、家族教室
保護者会等活動助成	260,000	148,000	光明園、たんぼ学園、アシスト前橋、まほろ、サニースマーケット、らいう、なかま、第1・2・3作業所、デイサービスセンター
学校関係活動助成	130,000	0	行事開催中止の為
団体組織の活動助成	220,000	95,000	前特同窓会、からたち学級、わの会、水泳クラブ、陸上クラブ、フライングディスククラブ
研修費	70,000	66,857	月刊誌「手をつなぐ」購読料、関ブロ大会・県大会準備委員会経費
地域生活支援事業	60,000	85,916	手をつなぐ作品展活動費、ボウリング大会
会議費	100,000	94,655	常任委員会議等
需用費	170,000	172,946	事務所家賃、光熱費、封筒、コピー用紙等
通信費	60,000	66,108	切手代、インターネット接続料、携帯電話利用料
交通費	260,000	239,300	常任委員の行動旅費
備品購入費	40,000	55,541	ノートパソコン代、のほり旗印刷代等
負担金	278,000	271,000	県育成会、市社協会費
雑費	10,000	5,400	慶弔費等
予備費	2,187	0	
特別会計繰入金支出	40,000	230,000	印刷機購入代金、県大会準備金
計	2,080,187	1,982,132	

3.差引残高(次年度へ繰り越し) 収入 2,176,820 - 支出 1,982,132 = 差引残高 194,688



1.収入の部

(単位/円)

項目	令和4年度予算額	備 考
繰越金	194,688	前年度より
会費	1,300,000	個人会費、団体会費
補助金等	627,000	市補助金43万2千、県育成会委託事業18万、県サポート協会1万5千
雑収入	1,000	利子等
特別会計繰入金収入	150,000	県大会運営経費
計	2,272,688	

2.支出の部

(単位/円)

項目	令和4年度予算額	備 考
会報発行	250,000	年4回(印刷、郵送費等)
保護者会等活動助成	260,000	申請により助成
学校関係活動助成	130,000	前教研・特担会研修費等補助
団体組織活動助成	220,000	特別支援学級・特別支援学校事業等助成
委託事業費	180,000	申請により助成
研修費	120,000	ゆうあいサークル、料理教室、家族教室
地域生活支援事業	190,000	研修会参加費、地域生活勉強会等
会議費	100,000	手をつなぐ作品展活動費、県大会運営経費等
需用費	160,000	常任委員会議等
通信費	70,000	事務所家賃、光熱費、封筒、コピー用紙、インク等
交通費	250,000	切手代、インターネット接続料、携帯電話利用料
備品購入費	40,000	常任委員の行動旅費
負担金	278,000	備品、修理費
雑費	10,000	県育成会、市社協、福祉バレード、相談員連協会費
予備費	4,688	慶弔費等
特別会計繰入金支出	10,000	
計	2,272,688	

1.収入の部

(単位/円)

項目	金額	備 考
繰越金	492,138	地域生活支援事業等準備金
本会計繰入金収入	10,000	
計	502,138	

2.支出の部

(単位/円)

項目	金額	備 考
本会計繰入金支出	150,000	県大会運営費用として
計	150,000	



令和4年度 前橋市手をつなぐ育成会 組織体制

●本部役員

Table with 2 columns: Position (e.g., 会長, 副会長) and Name (e.g., 塩崎 政江, 青木美紀夫).

●事務局

Table with 2 columns: Position (e.g., 事務局長, 特別補佐) and Name (e.g., 前川 知三, 佐藤 博之).

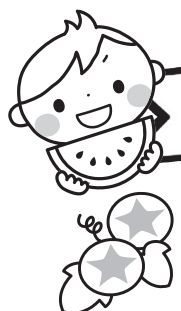
令和4年度 前橋市手をつなぐ育成会 理事名簿

Main table listing members with columns: 施設名, 施設長, 保護者会名, 代表. Includes sub-sections for 入所・通所施設 and 団体代表.

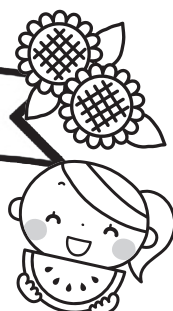
Table for 学校代表 (School Representatives) with columns: 学校名, 代表者名, 役職.

本部役員
○組織体制(案)に掲載の「本部役員」15名を理事とし、理事会構成員とする。(内、5名は上記の一般理事と重複)

令和4年度 理事総数 80名
[施設長等32名、保護者会長等24名、団体代表7名(1名重複)、学校代表8名、本部役員15名(5名重複)]
※令和4年5月31日現在(各機関・団体等、異動等により変更となる場合があります)



## 第57回群馬県手をつなぐ育成会大会前橋大会



と き：令和4年7月17日（日）10：00～15：30  
 ところ：メイン会場／群馬県社会福祉総合センター ホール  
 前橋サテライト会場／前橋プラザ元気21 にぎわいホール

3年ぶりの県大会、12年ぶりの前橋大会が初めての「対面とオンライン併用開催」で、開催されました。

開会式では、あいさつの後永年功労者154名、支部功労者28名、特別功労者17名を代表して、太田隆也元前橋市手をつなぐ育成会



会長に感謝状が贈呈されました。保護者の意見発表では、森芳子さんが「学齢期の親と卒業後の親をつなぐことを育成会に期待したい」と、親の思いを伝えてくださいました。

続いてのアトラクションでは、「ODORU-KAI」のリズミカルな踊りと、「わの会」と前橋市児童文化センター合唱団の共演による美しい歌声の発表がありました。「ODORU-KAI」の皆さんは3年ぶりの発表の場だったことから、とても意欲的に練習をしてくださったそうです。「わの会」と児童文化センター合唱団が同じステージで一緒に歌うのは初めての試み。障害者と健常児の歌の共演は、聴いている人たちの心を癒やしてくれ、これぞ「共に生きる」姿と感じさせてくれました。



これまで県大会では、昼の時間は休憩時間でした。でも、オンラインであるからこそ可能になったのが、学校や福祉事業所等の「活動紹介ビデオ」放映です。学校でも、事業所でも、あるいは余暇活動でも、みんなそれぞれがんばっている姿を紹介できました。県大会のおかげで貴重な活動紹介ビデオができあがりましたので、今後いろいろなところで活用されることが期待されます。

午後は「障害のある人が幸せに生きるために～一緒に乗り越えていこうよ～」をテーマにトークセッション。群馬県教育委員会特別支援教育課の池田係長には高校教育の現状を、前橋市障害者生活支援センターの齋藤所長には社会に出てからの福祉サービスや相談の状況を、前橋市手をつなぐ育成会副会長の関口純子さんには保護者の立場からお話をいただきました。そして全国手をつなぐ育成会連合会常務理事の又村あおいさんから全国の状況や本日の良さなどをお話いただき、障害者が幸せに生きていくためにこれからどうしていくことが大切なのかまとめていただきました。



フィナーレは「だんべえおどり」。本会場、サテライト会場ともに踊って、楽しく閉会となりました。

メイン会場の司会をしてくださった石井さん、高橋さんは「プロじゃないんですか」と言われるくらい聞きやすく、臨機応変に進めていただきました。スタッフの皆さん一人一人が、周りの皆さんと協力しながら主体的に動いていただき、全行程がスムーズに進められました。

## 前橋サテライト会場の様子

前橋プラザ元気21のにぎわいホールには、小坂福祉部長、都所指導担当次長、教育福祉常任委員会の議員の皆様、小学校長会長、原澤前会長など、たくさんの方が応援に来てくださいました。こちらはメイン会場とは異なり、前橋の会員の方もたくさん来ていただき、一緒に楽しむことができました。

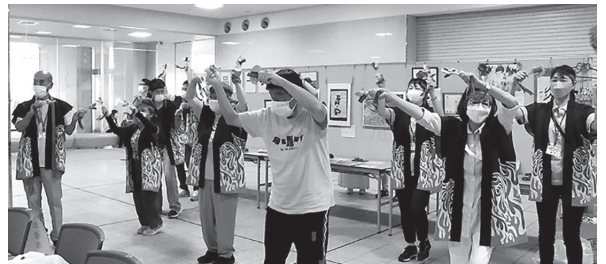


この広い会場でオンラインにより、メイン会場やたくさんのサテライト会場とつながることができました。前川事務局長、佐藤特別補佐、吉澤常任委員、児童文化センター高橋さんが、たくさんの機器を準備してくださり、前日から設定をしてくださったおかげです。また、気持ちよく動いてくださったスタッフの皆さんの協力で、参加してくださった方が気持ちよくすごすことができたと思います。

前橋サテライト会場では、障害福祉課の展示があったり、3階の中央公民館で「手をつなぐ作品展」を開催していたり、販売コーナーを設置したりと、県大会の様子をスクリーンで見ただけではなく、様々な楽しみ方がありました。メイン会場の開会式の後、市長はサテライト会場にも来てくださり、ドライフラワーを購入してくださるなど、会場の皆さんとの交流を楽しんでおられました。

サテライト会場では、スタッフがおそろいの新しいポロシャツではりきっていました。

特にフィナーレのだんべえ踊りでは「すずしろチーム」の元気な踊りを中心に、会場の皆さんの盛り上がり、スタッフの楽しそうな踊りが会場を一つにくれた感じでした。



### # 参加者にインタビューしてみました

○娘と参加しました。以前の大会では娘は扉の前で立ちすくんでしまい、遠くからでしか観ることができませんでした。今回サテライトの会場は扉がない為、一緒に参加できたことがとても嬉しかったです。広い会場は入りやすく、今回のようにいろんな会場からオンラインで繋いだのを見て、会場が選べたらもっと参加しやすくなると思いました。(藤掛)

○藤掛さんの感想を聞いて  
藤掛さんは本当に嬉しそうにお話ししてくれました。その話を聞いて私もうれしかったです。これからもたくさんの方に参加していただけたらと思いました。  
今回群馬県手をつなぐ育成会前橋大会に参加できとても貴重な時間を過ごすことが出来ました。ありがとうございます。(協力員 松本英里)

○前橋大会は、関係者やスタッフのご尽力で盛大に開催する事が出来ました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を講じるため、初めてのオンライン併用開催となりましたが、各サテライト会場との連携を図る事により、群馬県全体で「手をつなぐ」ような一体感を得る事が出来ました。(市P会長 狩野)

### 編集後記

大きな大会を、本当に多くの皆様のご尽力のお陰で無事につとめあげることができましたこと、心より感謝申し上げますとともに、前橋の皆さんの結束力の高さに変心強いものを感じました。令和4年度は、市長、教育長、指導担当次長、特別支援室長の他、新たに小曾根議長、鈴木副議長、中曾根康隆国会议員、福祉部長、社協会長、幼児教育センター所長等々、本当に多くの方々に本会の会員になっていただいています。官学民が一緒になって手をつなぐ育成会を盛り上げていただいているようでうれしく感じています。